

お家を守る

住まいのプロが教える メンテナンス振り分けチェックリスト

...

～DIYでできること、専門家に任せるべきこと～



目次

01 – 私たちについて

02 – 特徴

03 – データ

04 – お客様の声

05 – メンバー

06 – 月額料金プラン

07 – よくある質問

08 – 契約の流れ

09 – メッセージ

10 – 会社概要

はじめに

住宅を長持ちさせ、快適な住環境を維持するためには、適切なメンテナンスが欠かせません。しかし、どの作業を自分で行い、どの作業をプロに依頼すべきか、判断に迷うことも多いのではないのでしょうか。

このチェックリストでは、安全面・技術面・必要な道具などの観点から、DIYで対応可能な範囲と専門家に任せるべき作業を明確に区分しています。無理な作業による事故や、不適切な対応による住宅へのダメージを防ぐためにも、適切な判断基準を持ちましょう。

季節ごとの住宅メンテナンスを計画的に行うことで、小さな問題を早期に発見し、大きな修繕費用が発生する前に対処することができます。DIYでできる範囲を知り、プロの力を適切に借りることで、住まいの価値を長く保ちましょう。



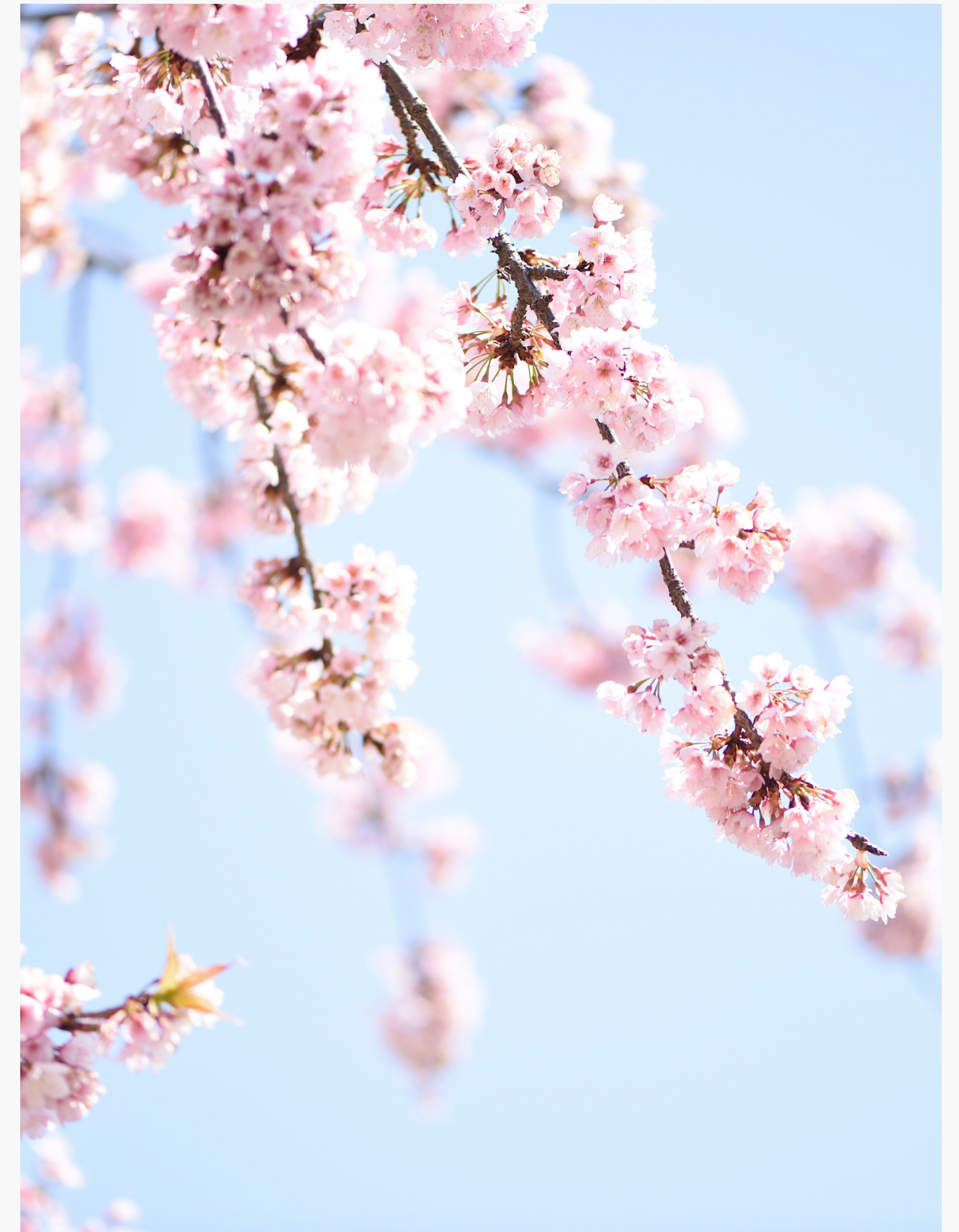
春（3月～5月）のメンテナンス

春は冬の厳しい気候から住宅を守るための絶好の時期です。冬の間に受けたダメージを確認し、これから迎える梅雨や夏の高温多湿に備えるメンテナンスを行いましょう。

住宅点検ポイント

- 外壁の亀裂やはがれのチェック
- 雨樋の清掃と損傷確認
- 屋根の損傷や浮きのチェック
- 窓枠、ドア周りのシーリング確認
- エアコン室外機の清掃・点検
- 床下・小屋裏の換気状態確認

冬の寒暖差による外壁の収縮・膨張は、小さな亀裂を生じさせることがあります。また、落ち葉や枯れ枝が雨樋に詰まっていないか確認しましょう。特に屋根材の状態は梅雨に向けて重要なチェックポイントです。室内外の温度差が大きい窓やドア周りには、シーリングの劣化が起こりやすいため注意が必要です。



春（3月～5月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 網戸の清掃と張り替え
- 雨樋のゴミ除去（低層部分のみ）
- 外壁の簡易洗浄（地上から届く高さのみ）
- 室内の結露跡の清掃
- 窓の結露対策用グッズの撤去と保管

DIY可能な理由

- ・ 特別な技術や専門知識が不要
- ・ 一般家庭にある道具で対応可能
- ・ 作業に危険が伴わない
- ・ 失敗しても大きな被害につながりにくい

専門家に依頼すべきこと

- 外壁の高所部分の点検と補修
- 屋根の点検と補修
- エアコンの本格的なクリーニング
- シロアリ駆除・予防処理
- 床下・小屋裏の本格的な点検

プロに依頼すべき理由

- ・ 高所作業による転落事故のリスク
- ・ 建物構造や設備に関する専門的な判断が必要
- ・ 一般家庭では所有していない専用機器が必要
- ・ 薬剤や処理方法に法的規制がある作業

春（3月～5月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 網戸の清掃と張り替え
- 雨樋のゴミ除去（低層部分のみ）
- 外壁の簡易洗浄（地上から届く高さのみ）
- 室内の結露跡の清掃
- 窓の結露対策用グッズの撤去と保管

【必要な道具と目安時間】

網戸：洗い桶、ブラシ、張り替えキット（必要な場合） - 約30分/枚

雨樋：園芸用手袋、ちりとり、安定した脚立 - 約1時間

外壁洗浄：庭用ホース、柔らかいブラシ、中性洗剤 - 約2時間

結露対策：雑巾、カビ取り剤（必要な場合） - 約30分/部屋

【DIYのコツ】

網戸は取り外して水洗いし、破れがあれば市販の張り替えキットで補修できます。

雨樋は脚立で安全に届く高さのみ対応し、高所は無理をしないでください。

外壁洗浄も同様に、安全に届く範囲内で行いましょう。結露跡は放置するとカビの原因になるため、こまめな清掃がポイントです。

春（3月～5月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 外壁の高所部分の点検と補修
- 屋根の点検と補修
- エアコンの本格的なクリーニング
- シロアリ駆除・予防処理
- 床下・小屋裏の本格的な点検

【依頼する際のポイント】

- ・ 外壁・屋根：複数の業者から見積もりを取り、写真による現状報告を依頼する
- ・ エアコン：メーカー推奨の清掃方法に対応しているか確認する
- ・ シロアリ：保証内容と期間を必ず確認する（5年保証が一般的）
- ・ 床下点検：湿気やシロアリだけでなく、基礎や配管の状態も確認してもらう

【専門家に依頼する目安費用】

- ・ 外壁点検：10,000円～30,000円
- ・ 屋根点検：15,000円～50,000円
- ・ エアコンクリーニング：10,000円～15,000円/台
- ・ シロアリ予防処理：100,000円～200,000円（一般住宅）
- ・ 床下・小屋裏点検：5,000円～20,000円（修繕を伴わない場合）

春（3月～5月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 外壁の高所部分の点検と補修
- 屋根の点検と補修
- エアコンの本格的なクリーニング
- シロアリ駆除・予防処理
- 床下・小屋裏の本格的な点検

放置するとどうなるか

- 外壁の亀裂からの雨水侵入による内部腐食
- 雨樋の詰まりによる溢れや破損
- シロアリ被害の拡大
- カビ・結露による健康被害の拡大
- エアコン効率の低下による電気代の上昇

小さな外壁の亀裂でも、そこから雨水が侵入すると壁内部の木材や断熱材が腐食する原因となります。詰まった雨樋からあふれた雨水は、外壁を伝って窓枠や基礎部分まで浸水被害をもたらします。シロアリは発見が遅れると、構造材にまで深刻な被害を与えることがあります。結露から発生したカビは、アレルギーや呼吸器疾患の原因となります。また、メンテナンスされていないエアコンは効率が悪く、夏場の電気代が大幅に上昇することもあります。

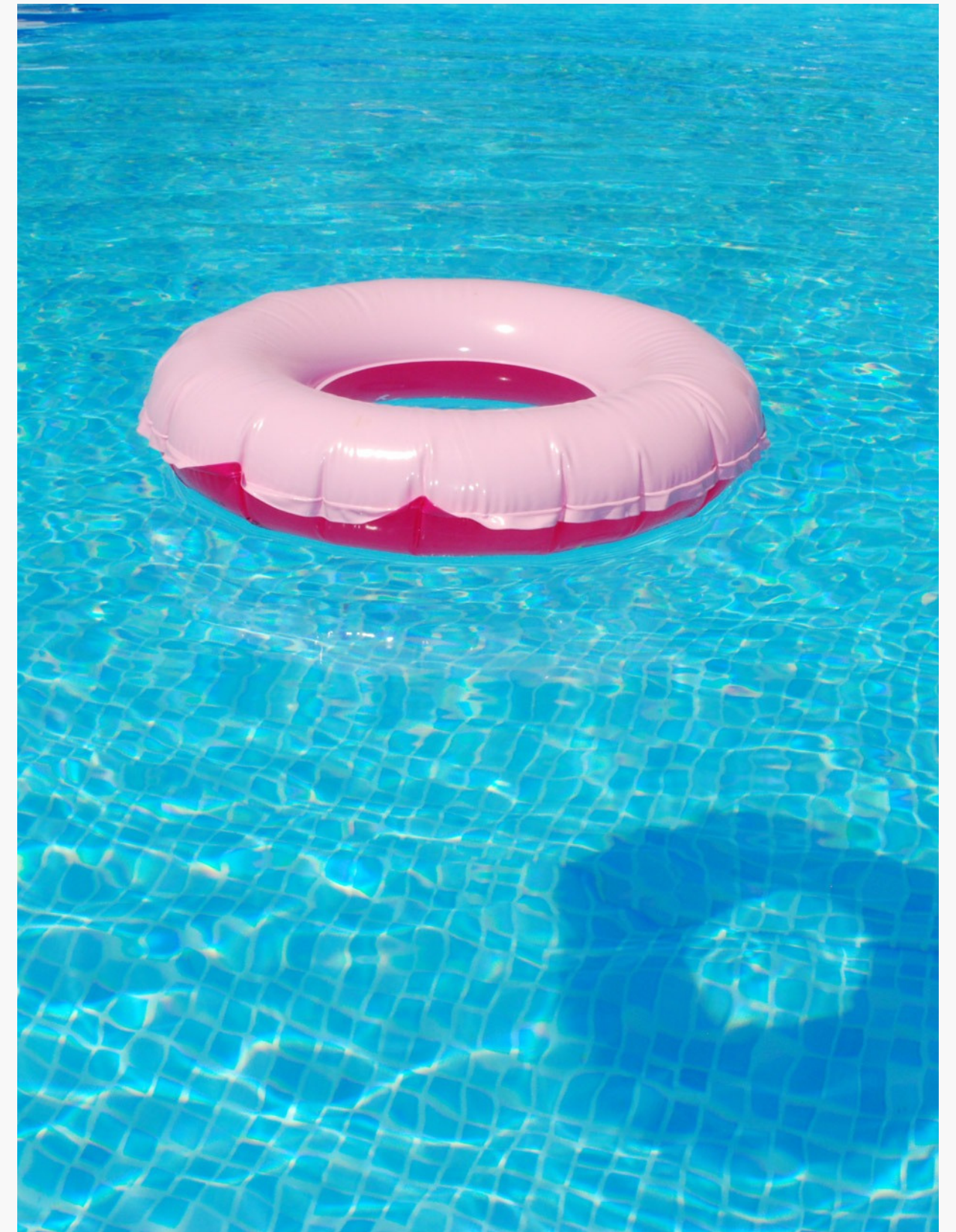
夏（6月～8月）のメンテナンス

夏は高温多湿の気候により、住宅にとって過酷な季節です。梅雨から夏にかけての湿気対策と、猛暑による住宅への負担を軽減するためのメンテナンスが重要になります。適切な作業分担で効率的に住宅の健康を維持しましょう。

住宅点検ポイント

- 室外機周りの環境確認
- 換気扇・換気口の動作確認
- 浴室の防カビ状態チェック
- 雨漏りの兆候確認
- 床下・小屋裏の湿気状態確認
- 日よけ・すだれの状態確認

エアコンの室外機周りに障害物がないか、十分な通気スペースがあるかを確認しましょう。換気扇や換気口は湿気対策の要となるため、正常に動作しているか確認が必要です。特に浴室は最もカビが発生しやすい場所なので、防カビ対策の状態を点検します。また、梅雨時の大雨で雨漏りの兆候が現れることがあるため、天井や壁のシミ、壁紙の膨らみなどに注意してください。床下や小屋裏は湿気がこもりやすく、シロアリや木材腐朽菌の温床となる可能性があります。



夏（6月～8月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- エアコンフィルターの清掃
- 換気扇フィルターの清掃
- 浴室の防カビ処理
- 窓ガラスの遮熱フィルム貼り
- 庭木の剪定（日陰の確保・低木のみ）

DIY可能な理由

- ・ 取扱説明書に記載された一般的なメンテナンス作業
- ・ 市販の製品で対応可能
- ・ 専門的な技術を必要としない
- ・ 高所作業を伴わない（庭木は背の低いものに限る）

専門家に依頼すべきこと

- 屋根・外壁の遮熱塗装の点検・補修
- 高所の日よけ・オーニング設置
- 床下換気システムの点検・修理
- 雨漏り箇所の本格的な調査・補修
- 給湯設備の点検・清掃

プロに依頼すべき理由

- ・ 専門的な塗装技術や施工技術が必要
- ・ 高所作業による転落リスクがある
- ・ 雨漏りなど原因の特定に専門知識が必要
- ・ 専用の診断機器や工具が必要

夏（6月～8月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- エアコンフィルターの清掃
- 換気扇フィルターの清掃
- 浴室の防カビ処理
- 窓ガラスの遮熱フィルム貼り
- 庭木の剪定（日陰の確保・低木のみ）

【必要な道具と目安時間】

エアコン：掃除機、ブラシ、雑巾 - 約15分/台

換気扇：中性洗剤、スポンジ - 約30分/台

浴室防カビ：防カビスプレー、雑巾 - 約20分

遮熱フィルム：フィルム、カッター、水スプレー - 約1時間/窓

庭木剪定：剪定ばさみ、軍手、ごみ袋 - 樹木の大きさによる

【DIYのコツ】

エアコンフィルターは2週間に1回程度の清掃を心がけましょう。フィルターだけでなく、目に見える範囲の吹き出し口周辺も清掃するとより効果的です。遮熱フィルムは気泡が入りやすいので、貼る前に窓をよく洗浄し、ヘラでしっかり気泡を押し出します。庭木の剪定は基本的な剪定のコツを学んでから行い、高木や電線近くの剪定は避けましょう。夏場の庭作業は熱中症に注意し、朝や夕方の涼しい時間帯に行うことをお勧めします。

夏（6月～8月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 屋根・外壁の遮熱塗装の点検・補修
- 高所の日よけ・オーニング設置
- 床下換気システムの点検・修理
- 雨漏り箇所の本格的な調査・補修
- 給湯設備の点検・清掃

【依頼する際のポイント】

- ・ 遮熱塗装：実績と施工例の確認、使用材料の性能保証内容の確認
- ・ 日よけ・オーニング：施工後のアフターサービス体制の確認
- ・ 床下換気：床下の状態を写真や動画で報告してくれる業者を選ぶ
- ・ 雨漏り調査：原因特定と修理まで一貫して対応できる業者がベスト
- ・ 給湯器点検：メーカー認定の点検業者を選ぶことで保証延長が可能な場合も

【専門家に依頼する前に確認した方がいいこと】

- ・ 見積りの詳細内容と項目ごとの費用
- ・ 作業内容の詳細と使用材料
- ・ 保証期間と保証内容
- ・ 完了後の点検とアフターサービス
- ・ 追加費用が発生する条件

夏（6月～8月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 屋根・外壁の遮熱塗装の点検・補修
- 高所の日よけ・オーニング設置
- 床下換気システムの点検・修理
- 雨漏り箇所の本格的な調査・補修
- 給湯設備の点検・清掃

放置するとどうなるか

- 室温上昇による冷房効率の低下と電気代の増加
- 湿気によるカビの発生と健康被害
- 木部の腐食進行
- 雨漏りによる構造体の劣化
- 給湯器の故障リスク増加

エアコン室外機周りの通気が悪いと冷房効率が低下し、電気代は最大で30%も増加する可能性があります。高温多湿の環境下では、わずか数日でカビが発生・拡大し、アレルギー症状や喘息などの健康問題を引き起こします。湿気による木部の腐食は徐々に進行し、気づいたときには大規模な修繕が必要になることもあります。小さな雨漏りであっても、継続的に水分が侵入することで構造材の強度が低下し、最悪の場合は建物の安全性に関わる問題となります。給湯器の定期点検を怠ると、突然の故障により使用できなくなるリスクが高まります。

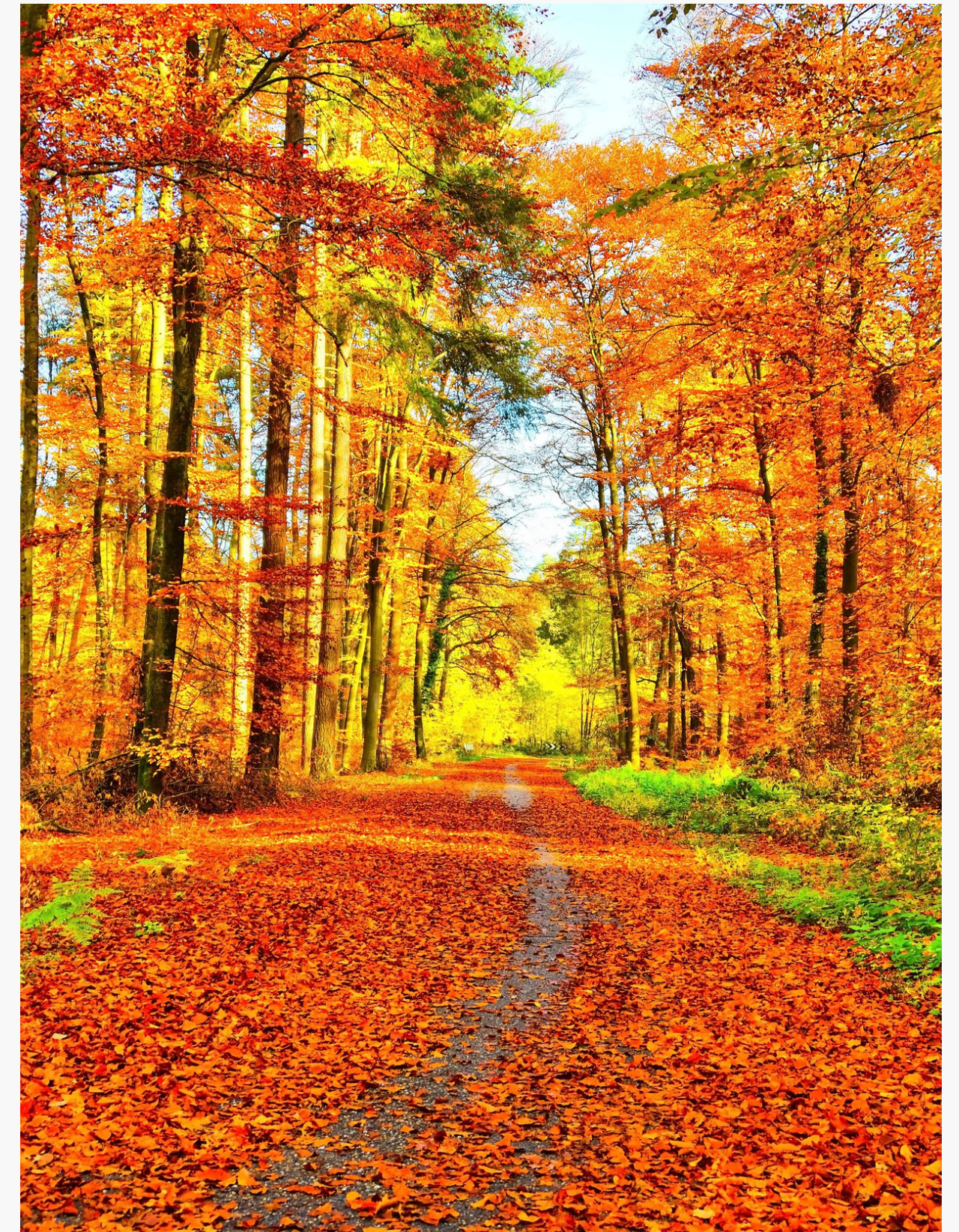
秋（9月～11月）のメンテナンス

秋は冬の厳しい寒さに備えるための準備期間です。暖房設備の点検や断熱対策を行い、冬場の快適な生活と省エネを実現するためのメンテナンスが重要になります。また、台風シーズンであることも考慮して、外部の点検も欠かせません。適切な作業分担で効率的に冬の準備を進めましょう。

住宅点検ポイント

- 暖房設備の動作確認
- 断熱材の状態確認
- 窓・ドアの気密性チェック
- 落ち葉による雨樋の詰まり確認
- 外壁の塗装状態確認
- 床下・小屋裏の湿気対策確認

冬に向けて暖房設備が正常に動作するか、早めに確認しておくことが大切です。使い始めてからの故障は、修理業者が混み合い対応が遅れることがあります。断熱材は経年劣化や湿気により性能が低下することがあるため、可能な限り目視で状態を確認しましょう。窓やドアの隙間からの冷気の侵入は暖房効率を大きく下げるため、気密性の確認が重要です。秋は落ち葉が雨樋に詰まりやすい季節なので、こまめな確認が必要です。また、外壁塗装の状態を確認し、冬の前に必要な対策を講じることで建物を保護できます。



秋（9月～11月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 暖房器具のフィルター清掃
- 窓の結露対策グッズの設置
- 雨樋の落ち葉除去（低層部分のみ）
- 窓・ドア周りの隙間テープ貼り
- 水道管の凍結防止対策（屋外蛇口の保護）

DIY可能な理由

- 取扱説明書に記載された基本的なメンテナンス作業
- 市販のDIY製品で対応可能
- 専門工具が不要
- 失敗しても安全上の大きな問題にならない

専門家に依頼すべきこと

- 暖房設備の本格的な点検・修理
- 屋根・外壁の塗装工事
- 断熱材の補充・交換
- 窓の二重サッシ化・断熱ガラスへの交換
- 床下暖房システムの点検

プロに依頼すべき理由

- ガス設備は安全性の確保と法令遵守が必要
- 屋根・外壁塗装は専門技術と足場が必要
- 断熱材施工は建物構造の知識が必要
- サッシ交換は防水・気密性を確保する技術が必要
- 床暖房は専用の診断機器が必要

秋（9月～11月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 暖房器具のフィルター清掃
- 窓の結露対策グッズの設置
- 雨樋の落ち葉除去（低層部分のみ）
- 窓・ドア周りの隙間テープ貼り
- 水道管の凍結防止対策（屋外蛇口の保護）

【必要な道具と目安時間】

- 暖房器具：掃除機、ブラシ、説明書 - 約20分/台
- 結露対策：断熱シート、ハサミ、両面テープ - 約30分/窓
- 雨樋清掃：園芸用手袋、掃除棒、バケツ - 約1時間
- 隙間テープ：市販の隙間テープ、はさみ - 約10分/箇所
- 凍結防止：蛇口カバー、保温材、結束バンド - 約15分/箇所

【DIYのコツ】

暖房器具は使用前にフィルター清掃を必ず行い、点火不良や排気不良を防ぎましょう。結露対策グッズは窓の内側全体をカバーするように設置するのがポイントです。雨樋の落ち葉除去は安定した脚立を使用し、必ず誰かに支えてもらいながら行いましょう。届きにくい場所や高所は無理をせず、プロに依頼することをお勧めします。隙間テープは窓やドアの開閉に支障がないよう、適切な厚みと幅のものを選びましょう。水道管の凍結防止は、特に北向きの屋外蛇口に注意が必要です。専用力バーや保温材を使い、隙間なく巻きつけることが重要です。

秋（9月～11月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 暖房設備の本格的な点検・修理
- 屋根・外壁の塗装工事
- 断熱材の補充・交換
- 窓の二重サッシ化・断熱ガラスへの交換
- 床下暖房システムの点検

【依頼する際のポイント】

- ・ 暖房設備：メーカー認定の資格を持つ業者を選ぶ
- ・ 塗装工事：施工実績と保証内容、使用する塗料の品質を確認
- ・ 断熱工事：第三者機関の性能評価を受けた断熱材を使用する業者
- ・ サッシ交換：メーカー保証と施工保証の両方がある業者
- ・ 床暖房：システムのメーカーが推奨する点検業者を選ぶ

【専門家に依頼する目安費用】

- ・ 暖房設備点検：5,000円～15,000円/台 - 1～2時間
- ・ 外壁塗装：一般住宅で100万円～200万円 - 2～3週間
- ・ 断熱材補充：30万円～100万円 - 3～7日
- ・ サッシ交換：1窓あたり10万円～30万円 - 1窓につき半日～1日
- ・ 床暖房点検：10,000円～30,000円 - 1～3時間

【秋に依頼する重要性】

暖房設備は冬になると修理依頼が殺到し、対応が遅れがちです。秋の比較的余裕のある時期に点検・修理を依頼することで、冬の突然のトラブルを回避できます。また、塗装工事は気温や湿度が適切な秋が最適な季節です。床下点検も冬の前に行うことで、寒さによる問題を事前に解決できます。

秋（9月～11月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 暖房設備の本格的な点検・修理
- 屋根・外壁の塗装工事
- 断熱材の補充・交換
- 窓の二重サッシ化・断熱ガラスへの交換
- 床下暖房システムの点検

放置するとどうなるか

- 暖房効率の低下による光熱費の増加
- 結露の発生によるカビと内装材の劣化
- 外壁塗装の劣化進行による防水性能の低下
- 雨樋詰まりによる軒天・外壁の腐食
- 水道管凍結による漏水事故

断熱性や気密性が低下した住宅では、暖房効率が悪くなり、同じ室温を維持するのに最大で2倍近い光熱費がかかることもあります。結露が発生すると、壁紙の剥がれや木製建具の腐食、カビの発生など、内装材に様々な悪影響を及ぼします。外壁塗装の劣化は見た目だけでなく、防水性能の低下につながり、雨水の侵入リスクを高めます。雨樋が落ち葉で詰まると、溢れた雨水が軒天や外壁を伝って流れ、木部の腐食を早めます。冬場の水道管凍結は、破裂による漏水事故を引き起こし、修理費用だけでなく、家財への水濡れ被害も発生する可能性があります。

冬（12月～2月）のメンテナンス

冬は住宅にとって最も厳しい季節です。外気温の低下による結露問題や水道管の凍結リスク、暖房使用による火災リスクの増加など、様々な問題に注意を払う必要があります。また、積雪地域では屋根の雪の重みによる建物への負担も考慮しなければなりません。適切な作業分担で冬の住宅トラブルを防ぎましょう。

住宅点検ポイント

- 結露の発生状況確認
- 屋根の雪の状態確認（積雪地域）
- 水道管・メーターの凍結確認
- 室内の乾燥状態チェック
- 暖房設備の異常音・臭い確認
- 火災警報器の動作確認

結露は窓や外壁に接する部分を中心に発生しやすく、放置するとカビの原因となります。毎日チェックする習慣をつけましょう。積雪地域では、屋根に積もった雪の状態を定期的に確認し、過度な積雪による建物への負担を防ぎます。水道管やメーターボックスは、凍結しやすい場所のため、特に冷え込みが厳しい日は注意が必要です。暖房使用による室内の乾燥は、健康被害や木製家具の劣化を招くため、湿度計でチェックしましょう。暖房設備から異常な音や臭いがしないか確認することは、故障や火災を防ぐために重要です。



冬（12月～2月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 結露対策（換気・拭き取り）
- 室内の適切な加湿
- 水道管の保温材巻き付け（屋内の露出配管）
- 窓の断熱フィルム・カーテンの設置
- 暖房器具周りの掃除

DIY可能な理由

- ・ 日常的なケア作業で専門知識が不要
- ・ 一般家庭で入手可能な材料と道具で対応可能
- ・ 安全リスクが低い
- ・ 即効性があり効果が実感しやすい

専門家に依頼すべきこと

- 屋根の雪下ろし（積雪地域）
- 暖房設備の緊急修理
- 凍結による水道管の修理
- 断熱改修工事
- 気密性向上のためのリフォーム

プロに依頼すべき理由

- ・ 屋根作業は転落の危険性が極めて高い
- ・ 暖房設備故障は迅速な専門対応が必要
- ・ 水道管の修理は専門的な配管知識と工具が必要
- ・ 断熱改修は建物構造に関わる専門工事
- ・ 気密性向上には建物全体の診断と対策が必要

冬（12月～2月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 結露対策（換気・拭き取り）
- 室内の適切な加湿
- 水道管の保温材巻き付け（屋内の露出配管）
- 窓の断熱フィルム・カーテンの設置
- 暖房器具周りの掃除

【必要な道具と目安時間】

- ・ 結露対策：乾いた雑巾、スクイージー - 毎日5分程度
- ・ 室内加湿：加湿器、湿度計 - セッティング10分
- ・ 水道管保温：市販の保温材、結束バンド - 30分/箇所
- ・ 窓断熱：断熱フィルム、ドライヤー、はさみ - 30分/窓
- ・ 暖房器具：掃除機、乾いた布 - 使用前に10分

【DIYのコツ】

結露は拭き取るだけでなく、原因となる室内の湿気を換気で調整することも重要です。窓を開ける際は、短時間で数回行う「換気の小分け」が効果的です。室内の加湿は湿度計で40～60％を目安に調整しましょう。過加湿は結露の原因になります。水道管の保温は、家の中の露出している配管にも注意が必要です。特に北側の部屋や、外壁に近い配管は凍結リスクが高いため、市販の保温材で包みましょう。断熱フィルムは窓ガラス全体に隙間なく貼ることがポイントです。暖房器具の周りは常に整理整頓を心がけ、可燃物を近づけないことが火災防止の基本です。

冬（12月～2月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 屋根の雪下ろし（積雪地域）
- 暖房設備の緊急修理
- 凍結による水道管の修理
- 断熱改修工事
- 気密性向上のためのリフォーム

【依頼する際のポイント】

- ・ 屋根雪下ろし：地域の気候に精通した実績のある業者を選ぶ
- ・ 暖房修理：メーカー認定のサービス業者に依頼する
- ・ 水道管修理：深夜や休日でも対応可能な地元の水道業者を事前に把握しておく
- ・ 断熱改修：施工実績と第三者評価機関の認証がある業者を選ぶ
- ・ 気密性向上：気密測定を行い、数値で効果を示せる業者を選ぶ

【専門家に依頼する目安費用】

- ・ 屋根雪下ろし：30,000円～80,000円/回
- ・ 暖房設備緊急修理：基本料10,000円～＋部品代
- ・ 凍結水道管修理：15,000円～50,000円
- ・ 断熱改修：部分的な場合50,000円～、全体的な場合100万円～
- ・ 気密性向上リフォーム：50万円～200万円

【緊急時の備え】

- ・ 地域の24時間対応可能な修理業者のリスト作成
- ・ 水道の元栓の場所と止め方の確認
- ・ 暖房機器の型番とメーカーサポート連絡先の記録
- ・ 断水・停電時の非常用水と暖房器具の準備
- ・ 近隣で信頼できる業者の事前調査と連絡先リスト化

冬（12月～2月）のメンテナンス

専門家に依頼すべきこと

- 屋根の雪下ろし（積雪地域）
- 暖房設備の緊急修理
- 凍結による水道管の修理
- 断熱改修工事
- 気密性向上のためのリフォーム

放置するとどうなるか

- 結露によるカビの発生と健康被害
- 屋根への過積雪による構造体への負担増大
- 水道管の凍結破裂による漏水被害
- 室内の過乾燥による健康被害・木製品の劣化
- 火災リスクの増加

結露を放置すると、壁や天井にカビが発生し、黒ずみや臭いの原因となるだけでなく、喘息やアレルギーなどの健康問題を引き起こす可能性があります。屋根に積もった雪の重みは想像以上に大きく、設計荷重を超えると最悪の場合、屋根の崩落などの深刻な被害につながる可能性があります。水道管の凍結による破裂は、発見が遅れると家財や建材に大きな水濡れ被害をもたらします。特に不在時に発生すると、被害は甚大になります。室内の湿度が20%を下回るような過乾燥状態が続くと、のどや肌の乾燥、静電気の発生だけでなく、木製家具や楽器、床材などにもひび割れなどの悪影響を与えます。暖房器具の不適切な使用や管理不足は、火災リスクを高めます。特に古い暖房器具は、定期的な点検と適切な使用方法の確認が重要です。

～チェックリストまとめ～

春（3月～5月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 網戸の清掃と張り替え
- 雨樋のゴミ除去（低層部分のみ）
- 外壁の簡易洗浄（地上から届く高さのみ）
- 室内の結露跡の清掃
- 窓の結露対策用グッズの撤去と保管

DIY可能な理由

- ・ 特別な技術や専門知識が不要
- ・ 一般家庭にある道具で対応可能
- ・ 作業に危険が伴わない
- ・ 失敗しても大きな被害につながりにくい

専門家に依頼すべきこと

- 外壁の高所部分の点検と補修
- 屋根の点検と補修
- エアコンの本格的なクリーニング
- シロアリ駆除・予防処理
- 床下・小屋裏の本格的な点検

プロに依頼すべき理由

- ・ 高所作業による転落事故のリスク
- ・ 建物構造や設備に関する専門的な判断が必要
- ・ 一般家庭では所有していない専用機器が必要
- ・ 薬剤や処理方法に法的規制がある作業

夏（6月～8月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- エアコンフィルターの清掃
- 換気扇フィルターの清掃
- 浴室の防カビ処理
- 窓ガラスの遮熱フィルム貼り
- 庭木の剪定（日陰の確保・低木のみ）

DIY可能な理由

- ・ 取扱説明書に記載された一般的なメンテナンス作業
- ・ 市販の製品で対応可能
- ・ 専門的な技術を必要としない
- ・ 高所作業を伴わない（庭木は背の低いものに限る）

専門家に依頼すべきこと

- 屋根・外壁の遮熱塗装の点検・補修
- 高所の日よけ・オーニング設置
- 床下換気システムの点検・修理
- 雨漏り箇所の本格的な調査・補修
- 給湯設備の点検・清掃

プロに依頼すべき理由

- ・ 専門的な塗装技術や施工技術が必要
- ・ 高所作業による転落リスクがある
- ・ 雨漏りなど原因の特定に専門知識が必要
- ・ 専用の診断機器や工具が必要

秋（9月～11月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 暖房器具のフィルター清掃
- 窓の結露対策グッズの設置
- 雨樋の落ち葉除去（低層部分のみ）
- 窓・ドア周りの隙間テープ貼り
- 水道管の凍結防止対策（屋外蛇口の保護）

DIY可能な理由

- 取扱説明書に記載された基本的なメンテナンス作業
- 市販のDIY製品で対応可能
- 専門工具が不要
- 失敗しても安全上の大きな問題にならない

専門家に依頼すべきこと

- 暖房設備の本格的な点検・修理
- 屋根・外壁の塗装工事
- 断熱材の補充・交換
- 窓の二重サッシ化・断熱ガラスへの交換
- 床下暖房システムの点検

プロに依頼すべき理由

- ガス設備は安全性の確保と法令遵守が必要
- 屋根・外壁塗装は専門技術と足場が必要
- 断熱材施工は建物構造の知識が必要
- サッシ交換は防水・気密性を確保する技術が必要
- 床暖房は専用の診断機器が必要

冬（12月～2月）のメンテナンス

DIYでできるメンテナンス

- 結露対策（換気・拭き取り）
- 室内の適切な加湿
- 水道管の保温材巻き付け（屋内の露出配管）
- 窓の断熱フィルム・カーテンの設置
- 暖房器具周りの掃除

DIY可能な理由

- ・ 日常的なケア作業で専門知識が不要
- ・ 一般家庭で入手可能な材料と道具で対応可能
- ・ 安全リスクが低い
- ・ 即効性があり効果が実感しやすい

専門家に依頼すべきこと

- 屋根の雪下ろし（積雪地域）
- 暖房設備の緊急修理
- 凍結による水道管の修理
- 断熱改修工事
- 気密性向上のためのリフォーム

プロに依頼すべき理由

- ・ 屋根作業は転落の危険性が極めて高い
- ・ 暖房設備故障は迅速な専門対応が必要
- ・ 水道管の修理は専門的な配管知識と工具が必要
- ・ 断熱改修は建物構造に関わる専門工事
- ・ 気密性向上には建物全体の診断と対策が必要

会社概要

会社名	株式会社RESIA
所在地（本社）	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-10-1-3F TEL： 045-461-9522
横浜支店	神奈川県横浜市瀬谷区二ツ橋町295-35 杉本ビル2F TEL： 045-620-5985
千葉支店	千葉県松戸市松戸1228-1 松戸ステーションビル5F TEL： 045-620-5941
神戸支店	兵庫県神戸市長田区東尻池町9丁目1-2 TEL：078-754-5120

株式会社RESIA



株式会社RESIA

お問い合わせ・申し込み



0120-897-580



<https://resia-v.com/>